

平成24年度 地域産業復旧・復興支援事業（Bタイプ）

特定非営利活動法人おおさき地域創造研究会 海の手山の手ネットワーク（宮城県）



「被災者の仕事づくりと連携した経済復興プロジェクトⅡ」

【事業目的】

震災以降「海の手山の手ネットワーク」を立ち上げ、沿岸部の方々と大崎市で農産加工を行う方々の復興のために、手に入りやすい新聞を活用した「新聞バッグ」をつくるプロジェクトを実施し、活動が広がりをみせ、沿岸部の被災者や岩出山の農産加工者の活性化に貢献することができた。

平成24年度は、さらに被災者が多い石巻地域の方々の仕事づくりも念頭に、新聞バッグづくりをするインストラクターを増やし、増産体制の整備を図ることを目的とする。

【事業実施状況・成果】

(1) 今後の事務体制や増産オペレーションを知り、学ぶため現場を訪れることになった。また、今後開催予定の（仮称）東北新聞バッグコンクール開催の手法を学ぶため「第3回四万十川新聞バッグコンクール」に参加。四万十ドラマの方々や高知のインストラクターの方々との交流を深めることができた。

メンバーの1人である南相馬から大崎市に2次避難している女性が「第3回四万十川新聞バッグコンクール」に応募し、グランプリを獲ったことは、今後の海の手山の手ネットワークの存在価値を高めることに繋がった。

(2) 四万十ドラマとの関わりから、海の手山の手ネットワークが自立の道を選択し始めた。

【今後予想される事業効果】

仮設住宅へ移った方々の収入が増えること、農産加工者の規模拡大や雇用が見込めることが一番の成果である。

四万十ドラマからのオーダーがあり、インストラクターの養成は四万十ドラマの協力を得て、当初の10名から20名に増え、増産体制が整った。そのオペレーションのノウハウを今後活用していく。

昨年の動きで出来た繋がりや縁を大切に、リピートしていただける仕組みに繋がった。手仕事する方々は、仲間づくりをしながら、心の支えが出来、明日への希望へと繋ぐことが出来た。

おおさき地域創造研究会の手を離れ、平成24年12月より事務所を移転。海の手山の手ネットワークが自立へ向けて活動中である。